

令和7年度（2025年度）長野県立大学 大学院 健康栄養科学研究科 修士課程
選抜試験（冬季）【⑥公衆衛生学、社会疫学、地域保健、実装科学領域】

問 問1および問2に答えなさい。なお字数制限はない。

問1 公衆衛生における、ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）などの「つながり」の重要性について、具体例をあげながら説明しなさい。

【回答例】

ソーシャル・キャピタルは人と人との「つながり」の蓄積を指す概念であり、ロバート・パットナムによれば「人々の協調行動を活発にすることによって社会の効率性を改善できる、信頼、互酬性の社会規範、ネットワークといった社会組織の特徴」とされる。これまで、ソーシャル・キャピタルが、地域や組織の教育、治安、経済の向上などさまざまな側面と関連することが報告されてきた。特に地域住民などの健康との関連については多数の研究成果があり、概してソーシャル・キャピタルの良い影響を示している。一方で近年では「つながり」の希薄化や、社会的孤立・孤独が課題となっている。こうした背景から、わが国の公衆衛生の施策において、ソーシャル・キャピタルの醸成や活用が重視されてきた。例えば、2024年度から開始された『健康日本21（第三次）』では、社会環境の質の向上として、地域の人々とのつながりや社会活動が目標項目として設定されている。また、保健補導員、健康づくり推進員、食生活改善推進員など、行政の保健師や管理栄養士等の専門職が住民とともに進める地区組織活動も、地域のソーシャル・キャピタルを醸成・活用した事例であるといえる。

【出題意図】

近年、公衆衛生で重視されているソーシャル・キャピタルなどの「つながり」のちからについて、その概念と意義、具体的な事例との関連についての理解を問う問題である。

問2 公衆衛生における、事業の企画や評価に関する考え方について、次の①～③のいずれか1つを選び、具体的な事例（保健事業やプログラムなど）をもとに説明しなさい。

- ①プリシード・プロシードモデル
- ②RE-AIM モデル
- ③PDCA サイクル

【回答例】（③を選択した場合の例）

PDCA サイクルは、Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）の頭文字を取ったものである。エドワーズ・デミングが、仮説検証の循環により品質改善を図るフレームワークとして提唱し、公衆衛生分野においても事業の推進において広く用いられている。それぞれの段階について、具体的な事例として、介護予防やフレイル予防を目的とした、地域の通りの場の運営を例に述べる。まずPlanは、目標を設定して事業を計画・立案することで

ある。通い場を運営する地域の高齢者の人数やニーズを把握し、開催時期、頻度、プログラム内容、運営方法、講師の選定などを行う。次に Do として、計画した内容に基づき実行する。実行した内容を評価し、振り返るのが Check である。例えば通いの場の参加者にアンケートを取って満足度や改善点などを聞き、結果を集計して評価することがこれに該当する。そしてその結果などを基に改善策を検討して実行に移すのが Action である。例えばアンケートの結果、「もっと参加者同士の交流の時間がほしい」という意見が多く出ていたら、次回以降にそうした時間を確保するように改善を図る。

【出題意図】

公衆衛生や実装科学の分野で用いられる、事業の企画や評価に関するモデルについて、それぞれの要素の理解を、具体的な事例を通して説明できるかを問う問題である。なお、①プリシード・プロシードモデルの場合は、9 ステップ（社会診断、疫学診断、行動・環境診断、教育・組織診断、行政・政策診断、実施、プロセス評価、影響評価、結果評価）、②RE-AIM モデルの場合は、Reach（到達度）、Effectiveness（有効性）、Adoption（採用）、Implementation（実施）、Maintenance（持続性）について、具体的な事例を通して説明する。

以上。